

# もっと**自分**らしく働こう!

キャリアデザインは「**自芯**」づくりから

花田 順一

こんな人が増えている

ある日、一人の相談者が私のところに来ました。そして、こう話を切り出しました。

「自分のしたいことがわかりません」

またある日、別の相談者が私のところに来ました。そして、こう話を切り出しました。

「今の仕事を辞めたいと思っています」

来る日も来る日もたくさんの相談者が私のところに来ました。そして、こう話を切り出しました。

「今の仕事、何か違う気がするのです。他に何？ って聞かれてもわからないのですけど」

「私は今までやってきた仕事を頑張るしかないのでしょうか？」

「今の仕事を続ける毎日で、将来は大丈夫なのか不安でいっぱいなんです」

「やる気を出さなきゃって思っても、どうしてもやる気が出ないのです」

しかししばらく経つと、その相談者の方々はみんな口を揃えて同じことを言うようになり変わりました。

「今の仕事は大変だし、もちろんイヤなこともありますけど楽しいです。なぜ他の人は自分のしたいことをしないのか不思議に思っています」

こういうセリフを聞くと、私は嬉しさと満足感が込み上げてきます。そして、楽しそうに話すその笑顔からまた新たな相談者と向き合う力をもらいます。

これが、仕事が楽しいと私が感じるときです。

あなたはどんなときに仕事が楽しいと感じていますか？

今、自分の働き方や生き方に何となく違和感や疑問を持つ人が増えていきます。

本人が気づいていなくても、その根底にもっと仕事に自分なりの意味と満足感が欲しいと感じている人が増えていきます。

一方で、そういう人たちは、将来の展望と自分自身の限界にも不安を抱えていたりします。

「したいことと安定していることのどちらを選べばいいでしょうか」

「私の思いは単なるわがままなのでしょうか」

「したいことがわかっていてもそれを自分がやっていけるか自信がありません」

さらに追い打ちをかけるように、他人や一般論からくる別の価値観も併せ持っています。

「我慢するのが仕事というものだ、あれこれ言うのはワガママなだけだ」

「好きなことをして満足いく働き方ができる人なんてほんの一握りの人だけだ」

「安定した暮らしが何よりも大切だ」

「したいことをやって失敗したら取り返すしかないよ」

今は不満、でも先は不安、周りの言うこともわかる、と三拍子揃って、何とも言えない物足りなさを感じながらも、仕方がないのかな、それが働くというものなのかなと自分に言い聞かせてしまっている人が多いのです。

でも、やっぱり心のどこかに、「自分を生かしたい」「でもどうすればいいかわからない」「きつかけが欲しい」、そんな自分を生かしたい思いをあなたも持っているのではな

いでしょうか？

### もっと自分らしさを大切にしよう

自分を出そうとしても辛い、逆に自分を抑え込もうとしても辛い、そんなどうすればいいのか答えを出せない辛さを抱えた相談者の話を聴くたびに、こういう人はみな生きることにも働くことにも真剣な人だなと感じます。

そして、他人の気持ちを受け取れる素直さと強い自分のこだわりや頑固さの両面を持ち合わせていて、自分のこだわりを表現する方法がわからなかったり、社会の中でのバランスの良い距離感がつかめないでいたりすることが多いだけで、それはわがままというわけではないのです。

だから、もっと自分の気持ちに素直になってもいいのではないのでしょうか？

もっと自分らしく自然体でもいいのではないのでしょうか？

“ドーナツ人間”と私は呼んでいます。真ん中に自分があるようでないという人は実はたくさんいます。

自分を中心に置くことはわがままで、文字通りの自己中心的と考える人もいます。もちろん、単なるわがままな場合や、他人のことをどうでも良いと考えることは良くないことです。自己中心であることと利己的であることは必ずしも同じではありません。自己中心であることは、自分を大切にしているということであり、わがままということではありません。それは、自分の芯を持つこと、つまり、自芯を持つことです。そして、それは決して楽にできることではありません。

しかし、自分に素直になることと自分に負けない気持ちを持ち、自信よりも自芯を意識して、もつと自分らしさを大切にしていきましょう。

## もっと自分のしたいことをしよう

良い大学を卒業して大手企業に就職する道が一番望ましいという考えはまだありますし、確かにそれが合っている人もいます。それを実践できている人は、とても優秀な人ですし、その優秀さをこれまでどおり社会に注いでほしいと思います。

私をもつたいたいと感じるのは、希望しても叶わなかった人、その道に疲れた人、一度は叶ったけれども途中で（望むか望まないかは別として）道を外れた人、その道を希望しない人たちが、その道が絶対的に良い道であるところまで信じてしまっていることです。

しかし、世の中で一般的に言われる価値観がすべて自分に該当するかどうかはわかりません。

その道自体が一番望ましいのではなく、その道に一番望ましい人がいるということ  
です。

人それぞれが自分に合っている道を選ぶことが望ましいのですから、もっと自分のし

たいことを選んで、自分が活躍することに意識を向けてみてもいいと思います。

一般的に優秀とされる道を歩めていない人は、努力する気持ちや自信を失っていることがあります。他人を信用できなくなっている人もいます。

誰でも良いこともそうでないことも経験して乗り越えてきていると思いますが、経験を消化できずに塞ぎ込んでいたり、ゆがんで捉えたままになっていたりする人もいます。私から見れば、本当は力があるのにその力が何なのかわかっていなかったり、どう生かして良いのかわからなかったりしているだけで、ほんのちよつとしたきっかけで変わる人が多いのです。

しかし、自分の世界に閉じこもってはそのきっかけは得られません。

どんなに小さなことでも構わないので、ほんの少し行動を起こしてみてもいいと思います。

世間体も時代が変われば変化します。

他人がどう思うか、今の世の中の価値観がどうであるかを気にし過ぎないで、自分のしたいことをやってほしいと思います。



自分のしたいことをやるのは自分のためだけではありません。誰かのためでもあります。

自分のしたいことをやらずに本気の力を出せるはずがありません。

本気の力を出せたときこそ本当の意味で人の役に立てるのだと思います。

働く形も変わりつつあり、従来の働き方ではない新しい働き方も出てきていると思います。

自分自身が目指しているのは、そして自分に合っているのはどちらなのかを一度じっくり考えてみてほしいと思います。

したいことをやっている人は輝いて見えます。

始める前は不安でも、一度したいことをやる世界に身を置いてみると、驚くほど楽しい景色が見えてきます。

あなたも自分らしいキャリアデザインを描いてその扉を開けていきましょう。